

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



「慶」「創立百二十周年」

初代の心にかえり信仰の喜びを

深めよう 伝えよう 広げよう

- 一、持ち場立場で日々理作り
- 一、家族揃って教会参拝
- 一、一日一件にをいがけ

立教174年
11月号

秋季大祭講話

この道の信仰の意義は
「世界たすけの実践」あるのみ

世話人 島村廣義先生

去る10月21日、大教会秋季大祭にご参拝くだされた世話人・島村廣義先生は、①立教の元一日の出来事に話しを起こされ、②善兵衛様が最初のお道の信仰者であり、③立教の元一日の出来事がひながたの始まりであるとして、そのひながたを歩むべきよぶく、一人ひとりの、④それぞれの入信の元一日の心定めを思い起こし、⑤立教の本旨に立ち返ることに焦点を当てられ、⑥本教の本旨である陽気ぐらし世界実現のための実践を促された。

以下にその要旨を掲載する。

①「お道を通る」とは世界たすけを実践すること

『教典』第一章の冒頭に

「我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび、世界一れつをたすけるために天降^{あまくた}った。みきを神のやしろに貰^{もら}い受^うけたい。」

とは、親神天理王命が、教祖中山みきの口を通して仰せになった最初の言葉である。

家人は、この思いがけぬ啓示^{おつけ}にうち驚き、再三言葉を尽して辞退したが、親神は厳として退^ひかれぬにより、遂^{つい}に、あらゆる人間思案を断ち、一家の都合を捨てて、仰せのままに順^{したが}う旨^{めい}を対^{たい}えた。

時に、天保九年十月二十六日、天理教は、

ここに始まる。(第一章おやさま)

とあります。

このお道がある理由、天理教が始った所以^{ゆえん}は、このお言葉の中にすべて凝縮されています。

「世界一れつをたすける」のが、この道の本旨です。

人間の陽気ぐらしを見て共に楽しみたいと思召して私たちをお創造^{つく}りになったのですから、人間が陽気ぐらしをすることを親神様は望んでおられます。

世界一れつの人間を、すべて余すことなくたすけあげ、陽気ぐらしをさせるところに、この道のお道たる所以があります。

『おふびく』に

月日にハせかいぢう、ハみなわが子
たすけたいとの心ばかりで 八 4

にんけんも共かわいであるをがな
それをふもをてしやんしてくれ 十四 34

月日にハせかいぢう、ハみなわが子
かはいい、ばいこれが一ちよ 十七 16

大教会本年心定め

- 初 席 者 数 279人(71人)
 - よ ぶ ぼ く 数 217人(47人)
 - 修養科修了者数 135人(10人)
 - 教人登録者数 114人(1人)
 - 参考) 教人資格講習会 (2人)
 - 教会長資格検定講習会 (5人)
- (括弧内は1月1日~10月31日)

記念祭までに心定めを完遂するよう
つとめさせて頂きましょう

とお教えいただきます。
人間をお創造^{つく}りくだされた親神様からすれば、世界一れつは皆我が子と仰せになり、ただたすけてやりたい、陽気ぐらしをさせてやりたいとの一念なのです。

②「入信」は、世界たすけの心定め

立教の元一日の状況をいろいろと思ひ巡らしてみると、この親神様の思いも掛けぬお言葉を告げられた、中山家の当主・善兵衛様のお心はどうだっ



陽気ぐらし世界実現のための
実践を促される島村先生

たでしょうか。

中山家の主立つお三方が身上になられ、その平癒を願われて始められた寄加持でした。

しかし、この身上についてどうすればよいというようなお返事はなく、今までに聞いたこともない神様がお現われになって、いきなり「世界一れつをたすけるために天降^{あまくだ}った。みきを神のやしろに貰^{もら}い受けたい。」とお告げになったのですから、当時の方々は、全く理解できない状態だったでしょう。

三日三夜の間、親神様と善兵衛様との押し問答が続き、その間、寄加持の加持台に立たれた教祖は、寝られず休まれず食事もなされず親神様の思召を伝え続けられて、その緊張と疲労は限界に達し命も気遣われる状態に立ち至り、遂に善兵衛様より、一切の人間思案を捨て一身一家の都合を捨てて「みきを神のやしろに差上げます。」と返答

されました。

これが、天保九年十月二十六日午前八時のことで、ここに教祖は神のやしろとお定まりくだされ、この天理の教えが始まります。

この善兵衛様の、あらゆる人間思案を捨て、一身一家の都合を捨てて、「世界一れつをたすけるため」との親神様の仰せに従われた、この心定め、この決心・決断があつてたすけ一条の道が始まりました。

親神様の仰せに従われたということは、善兵衛様こそが最初のお道の信仰者であり、この心定めと決断・実行が、入信の第一歩だと思えます。

③「よふぼく」は、世界たすけに使うために

引き寄せられた
教祖五十年のひながたは、この立教の元一日の出来事から始まるのです。

ひながたはひながた通りに通らせてもらう、私たち自身が通らせてもらうひながたですから、ひながたの始まりがこの立教の元一日だということ。「我が事」として考えてみましょう。

これには、善兵衛様が最初のお道の信仰者——立教の元一日に善兵衛様が入信された——とするなら、それぞれの入信の元一日、初代がこの道に引き寄せられたときのことを想像しながら悟らせてもらうのが、一番分かりやすいと思います。

そこで、冒頭の御言葉を私なりにこんなふう置き換えてみました。

「我は元の神・実の神である。このたび、それぞれの所属の教会に結ばれて、世界一れつをたすけるためにお前たちによふぼくとしてたすけ一条に立ち働いてもらいたい。」

「このたび」とは、身上・事情でお手引きいただき、にをいをかけていただいて、この道に引き寄せられたときのことです。

親神様のたすけ一条の御用にお使いいただくよふぼくとしてお引き出しいただいたのだと思案すると、我が事として心に納めやすいように思います。

教祖の御逸話の中に

さあく、いんねんの魂、神が用に使おうと思召す者は、どうしてなりと引き寄せるから、結構と思うて、これからどんな道もあるから、楽しんで通るよう。用に使わねばならんという道具は、痛めてでも引き寄せる。悩めてでも引き寄せねばならのであるから、する事なす事違う。(逸36「定めた心」)

と仰せられています。

親神様は、陽気ぐらし世界建設の普請の用材として、たすけ一条の御用にお使いくださる、そのためにお引き出しをいただいたと思案すると、お使いくださるほど、この上ない名譽と思える、ま

た、よふぼくとしての誇りと自信を持って、たすけ一條の道、ご恩報じの道をしっかりと歩まねばと思ひます。

④「入信、即、世界たすけ」は今の話し

教祖の御逸話を拝しますと、教祖は、初めておちびに帰った方々や入信間もない人々に対して、ご恩報じの道として、にをいかけ・おたすけの実践をお促しくださっています。

前田藤助・タツというご夫妻には「あんたは、種市さんや。あんたは、種を蒔くので。種を蒔くというのは、あちこち歩いて、天理王の話をして廻わるのやで。」と、お教えになっています。

(逸13「種を蒔くのやで」)

また、初めておちびに帰った榎本栄治郎という方には、無条件で、いきなり「村の中、戸毎に入り込んで、四十二人の人を救けるのやで。なむてんりわうのみこと、と唱えて、手を合わせて神さんをしつかり拜んで廻わるのやで。人を救けたら我が身が救かるのや。」と、お諭しになっています。

今で言う「戸別訪問」、しかも「四十二人」という人数までお示しになっています。

(逸42「人を救けたら」)

また、腰痛をたすけていただいた村上幸三郎という方がご恩返しの方法をお伺いすると、「金や

物でないで。救けてもらい嬉しいと思うなら、その喜びで、救けてほしいと願う人を救けに行く事が、一番の御恩返しやから、しっかりとおたすけするように。」と仰せられています。

(逸72「救かる身やもの」)

また、ご恩返しに人だすけを促された小西定吉さんという方が、人だすけの方法をお尋ねになると「あんたの救かったことを、人さんに真剣に話さして頂くのやで。」と仰せられて、コバシ(ハツタイ粉)を二、三合お下げくださり、「これは、御供やから、これを、供えたお水で人に飲ますのや。」と、おたすけの方法までお教えになっています。

(逸100「人を救けるのやで」)

いずれも、たすけを希^{こいねが}って初めておちびに帰られた方や入信間もない方々に、教祖は、こうして人をたすけることをお促しになっています。

おつとめ(の原型)をすること、にをいかけ・おたすけをすること、その方法までお教えくださり、たすけ一條の御用にお使いくださる教祖なので、す。

こうして、入信間ない人に対しても、陽気ぐらしを御守護いただくために、積極的に、道具としてお引き寄せになり、お使いくださっているひながたと、善兵衛様の立教の元一日の出来事とを、被^{かぶ}せ合わせて思案すると、この道の理を少しは聞き

分け、たすけ一條の御用の一端を担っている私たちよふぼくに對して、お望みくださるをやの御期待は、いかばかりかと思ひます。

しっかりと、このをやの思ひにお応えする道を通らねばと、私は思ひます。

真柱様は、昨年の秋季大祭において、

かつては、「入信即布教」と言われ、教校別科を了えたばかりの人たちが、もっぱら十全のご守護と八つのほごりの教理を頼りに布教に出向いたと聞くのであります。そこには、身上、事情をおたすけいただいたご恩に報いたいという感激があり、天理教の教えは素晴らしい、この道の信仰はありがたいという確信があったに違いないと思ひます。時代背景が異なるとはいえ、そうした人たちの心意気を、単なる昔話に終わらせてしまつてはならないと思ひます。

とお話しくださっています。

正しく先ほどの教祖の御逸話と同じように、別科を了えられたばかりの先輩たちが布教に出ておられます。

⑤「世界たすけ」の実践Ⅱ かりもの理を心に

納め、話し一條で心たすけ

おさづけの理を拝戴したときの後席^{あとせき}で、三人の

先生からお取り次ぎをいただきますが、二席目の中席なかせきの先生は、おたすけに出る上での、心得・注意をお教えくださいます。

そのお話しの中で、「この道のおたすけは病気などではなくその人の心をたすけますから、おさづけを取り次ぐ前には、先ず、親神様の日々の御守護を十分に納得していただくようにお話しを取り次ぎます」とお教えいただきます。

これを「話し一条」と仰せになりますが、「話し一条はたすけの台」とお聞かせいただくように、お道のおたすけは何で御守護をいただくのかと言うと、神様のお話しの理でたすかるのです。

身上・事情をたすけることにとどまらず、話し一条で心をたすける、これがお道のおたすけです。教祖は、側の先生方に「こふきを記せ」と仰せになりましたが、二代真柱様の『こふきの研究』という書物の中に、その「こふき話」を収めてくださっています。

その中に、

かみさまははなしばかりてにんげんの

こ、ろよこれであらいなさるで(山澤本 158)

たすかるもこ、ろしだいやいれつに

はやくこ、ろをすます事なり (山澤本 160)

ヨロツタスケト云ノハナ、葉出ステナシ、ヨ

ガミキトウスルデナシ、タダ神様ノヨハナシ

バカリデフシギナリヤク

(喜多本)

神のゆうことわしんしつとをもてねかゑば、おかみきとふや、くすりのまいでも、はなしいちしよふでみなたすかること、これしよふこなり。
(梶井本)

と記されています。

親神様の十全の守護、親神様のお働き、親神様の思召を、しっかり心に納めることによって、おたすけをいただきます。

おさしづにも、

たすけ一条の理は渡してある。話一条は論しある。何度聞いても分からん者理はどんならん。(中略)この事は前々に十分論し、人間はかりものの事情、心に発散出ければ尋ねるものやない。かりものくくと言うては居れど、かりものの理が分からん。
(明23・6・17)

とお論しになっています。

『おふでさき』にも、

めへくのみのうちよりのかりものを

しらずにいてハなにもわからん

三137

とありますが、かりものの理、親神様の御守護が分からないようでは、おたすけはいただけません。

これをしっかり心に納めてにいがけ・おたすけによぶぼくとしてのつとめを果たすこと、これを真柱様は、昔の先生方の事だと言って終わらせるのではなく、今日の私たちの為さねばならぬことだとお促しくださっています。

これをしっかり、私たち自身が心に納めて、そして、にいがけ・おたすけに歩むこと、これが、また、自らがたすけていただく道でもあると思います。

⑥自分自身の「世界たすけ」の再確認を

笠岡大教会は、来月、創立百二十周年記念祭をつとめることになっています。

記念祭は、何でつとめるのかと言えば、信仰の元一日に立ち返る、初代の道に立ち返るとともに、道は末代とお教えいただくように、我々の究極の目的、陽気ぐらしを目指して、ひたすらたすけ一条の道を推し進めるその使命を、お互いに再確認することが、記念祭をつとめることの意味だと思います。

三年千日と仕切って、その活動をつとめることも、日々からよぶぼくとして心掛けなければならぬことは、重々分かっているもなかなか取りかかりにくいこと、しかも、その理の重いものから集中して、それに取り組み、成人の証しるしを御守護いただいて、親神様・教祖にお喜びいただきたい、真柱様にもご覧いただいております。これを、記念祭をつとめる私たちの心だと思えます。

特に、今日、代を重ねて信仰している私たちにしてみれば、自分は直接おたすけをいただいた、

また、我が身にいろいろお知らせをいただいでそれに気付いた方は、一番、よくお分かりでしょうが、親の代々の信仰を受け継いで、そのお徳のままに通っているお互いならば、やはり、初代の道に思いを致し、我が家の入信の元一日、これをしっかり思案しながら、今日おいていただいでいる自分の結構を本当に喜べるように思案することが第一です。

そして、その喜びを台として子々孫々にそれをまた伝え、その喜びを広く世界にお伝えして、一日も早く、陽気ぐらしいの世界が訪れるよう、よぶよぶくとしてのつとめを果たす、これをお誓いすることが、記念祭をつとめることの意味だと思えます。

いろいろと心を定めて三年千日通ってききました。一生懸命やった人、それなりにやった人、なかなか御用はできなかった、よぶよぶくとしてのつとめもなかなか果たし得なかった方もあるかも知れませんが、まだ、一ヶ月あります。

また、結果・成果を云々ではなくて、一所懸命やった、自分がどれだけ実動しつとめたかが、私は、記念祭を意義付けることになると思います。やっただけのことは、必ず、神様はどこかで芽吹きのお守護をくださる。蒔かん種は生えてきません。蒔いたものは必ず、神様は発芽・開花・結実へと御守護くださるものです。

一つ、後一ヶ月少々ありますが、百二十周年は二度とやってまいりません、どうぞ、悔いのない百二十周年をつとめ、をやにお喜びをいただき、また、私たち自身も末代互ってのお徳を頂戴できるよう勇んでつとめたい、このように思っています。

立教の元一日を思案しながら、要は、親神様の思召を、また、私たちよぶよぶくに期待くださるをやる思いをしっかり受け止めて、その思いにお応えする道を心して通らせてもらいたい。この点をお互いに申し合わせて、今日のお話しを終わりたいと思います。

《以上要旨》

各係主任会議行う

10月29日 実行委員会

実行委員会(田中一之委員長)は10月29日午前8時から約2時間、大教会会議室で大教会長様、奥様、同実行委員、記念祭各係主任が出席し会議を行った。具体的な打ち合わせに入るため、各係主任も加わった。

大教会長様、田中同委員長の挨拶の後、上原繁道同委員から11月29日・30日のスケジュールの詳細



細部にわたっての打ち合わせが真剣に行われた

細な説明があった。引き続き、各係の役割の再確認、準備状況、今後の予定、問題点などが細部にわたって話し合われた。

また29日午前9時、係員集合し、全員でお願いのきしんを行い、30日は午前

8時に係員は集合し配置に付く(各係によっては集合時間は異なる)ことを申しあわせて閉会した。

おかえり講話開催

10月25日 詰所で

布教部

布教部(中村剛部長)は10月25日、午後7時から約1時間、詰所3階講堂で講師に茶木谷吉信先生(本部布教二課研究員、大江大教会部属・正代分教会長)を迎え「お帰り講話」を開催、宿泊者など約180人が参加した。

記念祭に向けて意気高め

『青年会員のつどい』開催

青年会

青年会笠岡分会では、10月30日、大教会で『青年会員のつどい』を開催し、遠近を問わず31名が参加した。

この日は、同じ青年会員という立場で御用に励んでいる、酒井耕平氏(大阪教区青年会副委員長)を講師に招き、お話を頂いた。酒井氏は、元来にをいがけが苦手であったが、親々の声がきっかけで、神名流し・駅前での手をどり・野宿布教などの日々を通して、不思議な神様のお働きを頂いたエピソードなどを熱く語った。

直後のグループタイムでは、酒井氏のお話を聴



様々な体験談を語る酒井氏



信仰談議のグループタイム



連帯感が生まれたペンキ塗り



記念祭についてのお話

いて感じた事や、これからそれぞれが心がけていきたい事などについて、活発に意見が交換された。午後からは、今年青年会が行っている、『創立120周年毎月ひのきしん』の一環として、客殿まわりのひのきしんを行い、その後は、笠岡大教会初代会長様の足跡をたどるDVDを視聴した。

最後に、記念祭実行委員会の上原志郎先生より、記念祭の意義や当日の予定についてお話を頂いた。

参加者らは、1日を通して、笠岡につながる仲間と信仰について語り、ひのきしんに汗を流し、記念祭への意気を高めた。

(青年会笠岡分会委員長 上原 繁次)

◆以下参加者の声

『心がけていきたい事』

- ・親の思いに素直に沿っていく。先人の話を聴く。
- ・職場でもにいがけ・ひのきしんを実行する
- ・教会への日参。月次祭への参拝。行事等に積極的に参加する。

『その他』

- ・一つ一つの出来事に対して、親の思いを感じ取ろうとする心構え、姿勢を見習いたい。(お話し)

- ・布教は、できる事から自分で行動する事が大切だと思った。(お話し)

- ・みんなで、記念祭へ向けてのひのきしんに携われて良かった。(ひのきしん)

- ・笠岡大教会のルーツを知る事ができて、とても良かった。(DVD)

温故知新

「いぢいぢい」の

島根の道の礎

これは昭和5年10月笠岡で行なわれた「婦人会委員部設立二十周年・青年会支会設立十周年記念連合総会」の席での講話を「つばさ」という小冊子に纏めた中の「忘れ勝な私の心」と題した浅野弥三郎氏の講話の抜粋である。

神言に「自由用といふ理はどこにあると思ふなよ只めんめん精神一つの理にある」と仰せられてあります。私はその自由用を頂く精神一つの理というのは元一つの心を貫徹する処にあると思うのであります。即ち、無い命を救けて頂いた元一日の飛び立つような喜びと燃えるような信仰を持続して万事にその心持で当らせて頂きますれば、朗らかな晴天続きの道を通らせて頂く事ができるのであります。

前会長様(笠岡二代会長)からも屢々道の理は算盤の桁のようなものである。一とも言えども百とも千萬億とも言ふと聞かされました。元の心を失わずして「何でもどうでも成っても成らなくても」というすさまじい精神一つの理を

神様は御要望なさって居るのであります。その精神に神様が働いても下され我々が救けても戴けるのであります。

明治二十六年旧十月、私は島根県へ布教を命ぜられました。勿論費用は一切支給されなかったのです。専心布教に従事したのですが、道は思うように伸びなかったのです。されど出発の際にどうしてもこうでも道をつけさせて貰うと堅い決心を定めて出て居るのでから、こうなる事は覚悟の前です。然し僅かな布教費は欠乏を告げ、全く困苦艱難な現状に到達したのです。

当時商売に馴れた私の経験から、或る品物に手を染めると必ずいささかな利益を見られる事柄が突発しておりました。衣食に事欠くまで窮迫すると一時はそれでもやって現状だけでも切り抜けるか・・・という人間考えが、絶え間なく私の心に閃いて参ります。一方では反対に利害勘定に心が走るように神一条の道が立つか、お前は何しにどうした心で单身布教に出たのだという良心の嘯きが鋭く頭を持ち上げる。一ヶ月の間、間断なくこの心の戦争は続いて居りましたが、神様は邪道に迷わんとする私の心を導いて下さって眼前の利益問題を心から取り扱う事が出来たのであります。

すると間もなく八里程隔たった地から私の布

教地の本庄に出て来て居る人が永年のリユーマチで苦しんでいたのに匂いが掛かり、一度のおさづけで自由用を戴いたのであります。あまりの嬉しさと不思議な力に一驚したその人は私に向かつて、「八里向こうの大東に私の懇意な人が病氣になって困って居ります。こんな有難い神様なら私が手引きさして頂きます。是非行って下さい」と申します。私は二ツ返事で引き受けたものの懐中無一物、行けば旅費も要ろうし宿も取らねばならぬ。そこで或る信徒の家へ何とか頼んでみようと門口まで行ってフト考えた。これはいけない。天理教の先生が金を貸してくれと言って神様の道に疵をつけるような事があっては神様に申し訳がない。そう思ったので其の儘踵を返して他の一軒の信徒へ兎に角留守にする挨拶だけして歩いて行こうと心に決め、その家に立ち寄り大東へ行く旨を話した。そして別れを告げ十四、五間も後戻りした時、その家の主人が忙しく私の後を追いかけて来て、先生これはほんの些細な金ですが何かの用に足して下さいと一封の包をくれたのです。ああ神様は何という御慈悲だろう。神恩の鴻大な御恵に感謝と喜びの念を捧げて出発しました。目的の地大東へ着いて五日程滞在して居る間に病人も御守護に浴しましたので、一先づ帰る事にしました。というよりは実はその昼までの

宿料を勘定してみると四銭しか残らないので、四銭では夕食にも有り付けないので先方へ急用が出来たと体よく断ってテクテク歩いて本庄の所在地へ帰りました。時は夜中の十二時頃です。家人が私の遅い帰宅に驚きながらも先生笠岡から書面が来ておりますというので開封してみると、為替が同封してありました。私は神様の御慈悲と霊妙な御働きにここでも有難涙にむせばずには居れませんでした。こうした温かい親心に切羽詰まった急場をその場その場で通して頂いたのです。この事に端を発して大東方面に道が芽生えかけたので、本庄方面に五日居れば大東方面へは夜道を厭わねば昼の大切な布教時間を無為にせないで済むので、幸い頃は夏であったし大抵テク付いて夜間布教地を交互に往復した訳であります。かかる布教状態が二ヶ月続いた時六十五軒の信徒を神様から御与え下さったのです。生活難と伝道上の障害に遭遇して前途の多難をうたた憂慮せずに居れなかった当時の苦境を、神様は私の僅かな仕切り根性に乗って道を切り開いて下さったのです。

そうこうして居ります内、此処に常識を以って考え及ばない面白い事件が興ったのです。そしてその出来事が燃えかけているものに油を注いだように細道を大道に進出さず動機となったのです。明治三十八年の秋でしたか、三代貞七

という村会議員まで勤めた村での名望家がありました。その人の奥さんがコレラに罹り、私は徹宵てっしやうこのお救けに当たらせて頂いたのです。・・が不幸にして夜が白々と明け放たれると同時に絶命しました。本人はそれで済んだのですが済まないのは家族の者達、誰彼なしに一樣に伝染の気配がして枕を列べて倒れて了ったのです。それが為に三代家は交通遮断の憂目に会ったのです。私はそんな事を意に介せず三代氏に懸命に教理を取次ぎました。三代氏の胸に「ほんに人間の躰は借り物だ、借り物である以上神様の御思召であれば一度は必ず御返しせなければならぬ。それを人間が案じたって居たってどうもなるものでない、神様に縋って居ればよいのだ」という考えが浮かぶと同時にスーと胸がすいて救かった。この事を家人に話すところの罹病状態から不日ふじつにして家人も救われたのです。嘘のような本当の話、そこで交通遮断の解禁されない中を五日目に私は運んで行って、夜の十時頃から十二時近くまで話し合っ居ります処へ運悪くも巡回中の巡查がヒョッコリ入って来たのです。さあ大変天理教の布教師ともあろう者が社会に害毒を流すような事をする、又三代さんも名誉職まで勤めて居るような人でありながら不都合だと散々油を取られ即刻役場に引張られて全身を消毒されまし

た。私は此事件が影響して、もし漸くにして燭光を見出さんとして居る道を瓦解するような事が有っては・・と真に断腸の思いがしました。然し世の中は何が幸いになるか分からないものです。天理教の先生にはコレラが取っ付かない、という妙な噂が拡がって私の心配と反対に世間はその事で反って好感を持ってくれるようになったのです。神様のお働きは全く人智の埒らちを超えるものです。こうした事が教祖の御教えを急速度に本庄、大東の地で伸べ拡げて行ったのです。

講話は内務省訓令の余波で島根・出雲の二名称の取り消しと更に復興にいたる事情が続くのであるが、それはまたの機会に譲る。

弥三郎氏のこの話は一筋に信仰の道を歩む者の厳しさを今に伝えてくれる話である。

温故知新のもと話を綴っているのであるが、これを昔話としてほしくない。

信仰はいつも途上つまりプロセスである事を、私たちは常に心においておかなければならないと思う。先代が通ってくれた後の楽々の大道を歩いていると思うのは錯覚である。先代と同じ、いやそれ以上の細道を今私たちは歩いている、その思いが信仰の根本にないといけない、そう思う。

(笠岡史料部長)

教会おとまり会の報告

▼吸江隊

実施日 平成23年8月18日・19日
 参加者数 少年会員15人 育成会員15人 合計30人
 プログラム
 18日 16:00 受付。
 30 ゲーム。
 17:30 おつとめの練習。
 18:00 夕づとめ。
 30 夕食。
 19:00 花火。
 20:00 風呂、就寝。
 19日 7:00 起床、洗面。
 15 朝づとめ、ひのきしん。
 8:00 朝食。
 30 勉強。
 9:30 水泳。
 12:00 解散。

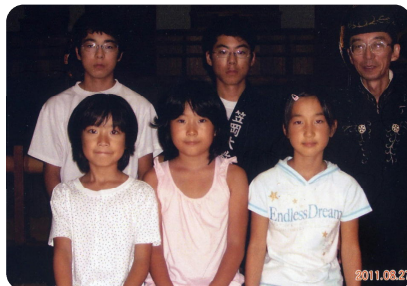
所 感 今年も教会おとまり会が開催出来た事に、親神様に御禮申し上げます。又駐車場が無いし、教職舎もせまい中、雑魚寝で寝食にひのきしんして下さった婦人会の皆様に、深謝致します。



▼芦田川隊

実施日 平成23年8月27日(土)・28日(日)
 参加者数 少年会員4人 育成会員4人 合計8人
 プログラム
 27日 17:00 集合。
 (土) 30 夕食。
 18:30 夕づとめ、教話。
 19:15 花火。
 20:00 入浴、自由。
 22:00 消灯。
 28日 6:00 起床、洗面。
 (日) 30 朝づとめ、教話。
 7:00 朝食、自由。
 9:30 解散。

所 感 こどもおぢばがえりに参加した、小3の娘の同級生が参加してくれました。花火をした以外は、お楽しみ行事のようなことは何もなかったのですが、家と違った広い参拜場で、自由に遊び、一つの布団で仲良く眠り、楽しかったようです。参加者の親も「夏休みの終りにとても良い思い出作りができました」と喜んで下さっていました。



▼大恵山隊

実施日 平成23年8月30日
 参加者数 少年会員3人 育成会員2人 合計5人
 プログラム 30日 13:00 集合、みんなでバドミントン。
 14:30 参拝、おつとめ。
 こどもおぢばがえり詰所内クイズ当選の受賞。
 16:00 みんなで夕食会。

所 感 昨年度のおとまり会(泊なし)に参加した子供のうち、今年度2名の子供が、今年のコどもおぢばがえりに参加してくれた。
 昨年に引き続き、みんなでバドミントンに汗を流した後、教会参拝。こどもおぢばがえり詰所内クイズに当選した子供に景品を渡すことができた。大変喜んでいて、来年もこどもおぢばがえりに参加すると誓ってくれました。



＜実行委員会＞

○創立120周年記念祭について

・参拝者目標 3,000人

10月21日第3回集計 1,837人

(大人1,697人、3歳～小学生98人、0歳～3歳42人)

・記念祭案内チラシ各教会配布。

参拝募集の上に活用して下さい。

＜神事部＞

○記念祭当日の神饌物があれば11月28日までに

岡本久善神事部長まで連絡下さい。

＜会計部＞

○記念祭までに本年の心定めの完遂をお打ち出し頂いています。

御奉公の上にも記念祭までにお心寄せをお願いします。

＜庶務部＞

○教会長・布教所長家族名簿未提出の教会は至急提出して下さい。

＜管理部＞

○記念祭に向けて連日、ひのきしんを行っています。

＜『かさおか』編集掛＞

○記念祭誌発行のための原稿を依頼しています。

12月7日までに郵送、

大教会神事所受付箱までお願いします。

<布教部>

○春季大祭詰所受け入れひのきしん

・福山1人、高屋1人、島根1人、上下・府中市で1人、計4人

○立教175年布教の家入寮者募集

・期 間 立教175年(平成24年)3月29日(入寮研修会)

～翌年3月27日(卒寮の集い)まで

・資 格 ※所属教会長ならびに直属教会長から推薦された天理教教人。

ただし、1ヶ所の布教の家には、原則として1直属から1人とする。

※年齢は問わない。

※単身で入寮のこと。

・願 書 11月25日より本部布教一課にて配布。

・受 付 立教175年1月25日午前9時より2月25日午後4時まで、
布教一課まで持参。

※詳細は大教会布教部か、本部布教部 布教一課まで。TEL 0743-63-2243 (直通)

<詰所掛>

○正月三が日は炊事本部が休みになります。

食事申込みは12月15日までに。

○お節会に団体(10人以上)で帰参の教会は12月17日までに

詰所(上原澄雄副主任)に連絡して下さい。

○記念祭に向けて詰所よりマイクロバスを運行します。

申込みは詰所まで。

日 時 11月30日(往路)午前6時 詰所発

(復路)午後3時 大教会発

<青年会>

○全分会布教推進週間の報告

67分会で実施

○毎月ひのきしん 11月27日実施予定

<少年会>

○教会おとまり会実施教会は

報告書を提出して下さい。

10月末で74教会で実施。

<学生担当委員会>

○学生担当者大会

日 時 11月25日(金) 13:00～

内 容 真柱様お言葉、他

場 所 第2食堂

○立教175年

おせち学生ひのきしん隊(直属隊)

期 間 立教175年1月4日(木)

～7日(土)

参加費 2,000円。

×切り 12月15日。

※各教区での申込みは、教区学生担当委員会へ
お問い合わせください。

○平成24年度 東京教区 三才寮 入寮案内

・保護者がよふぼくで、東京近郊の4年制大学
へ入学予定の男子。

▼表紙の書

天場山分教会

役員

野津正樹さん

秋風に教祖偲ぶ月あかり

進秀詠

東悠分教会前会長夫人

田林美智子さん

▼養徳社発行『陽気』誌十一月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「風」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうございます。

こころの詩

重量挙げで3位入賞!



クリーン・アンド・ジャークで
140kgに成功(写真提供:国定和輝君)

第53回 インターハイで

— 新山邑分・国定和輝君 —

本誌「かさおか」・平成22年10月号で紹介した笠岡工業高校ウェイトリフティング部所属の国定和輝君(現在3年生、新山邑分・新賀布教所長・国定節喜さんの長男)は、先ごろ岩手県奥州市で行われた第53回インターハイ(平成23年度全国高等学校総合体育大会)重量挙げ77kg級「クリーン・アンド・ジャーク」種目に出場、全国の県予選を勝ち抜いた60人が出場するなか3位に入賞した。

昨年、僅かな体重差(重量挙げ競技の場合、同重量を上げて体重の軽い方が上位になる)に泣き10位に終わった。しかし、持ち前の負けん気と猛練習で今年は見事に昨年のリベンジを果たした。

重量挙げ競技には「スナッチ」＝バーベルを一気に頭上に引き上げる＝と「クリーン・アンド・ジャーク」＝一旦、肩まで上げ、そこから頭上に持ち上げる＝の2種目があり、試技は各3回。上げた重量で競う。

大会に向け授業後、筋力トレーニングを中心に引き上げ、差し上げなどの基本練習、また各種目の実戦練習が毎日、2時間余り続いた。バーベルの重さを徐々に増していくため練習により筋力、筋肉、そして食事の量もアップ。身体の成長期も伴って体重も増え、これまでの69kg級から一ランク上の77kg級へ。

迎えた今大会、最初は「スナッチ」種目。気分も体調も絶好調。120kgからのスタートを希望したが、同部監督の指示で116kgで試技。自分の力なら軽くクリアー出来ると思ったが、結果は3回とも失敗。規則により失格。まさかの敗北だった。頭の中に昨年の悔しさが浮びあがった。

「このままでは、恥ずかしくて笠岡には帰れない!」絶体絶命のピンチの中で彼の不屈の闘志に火がついた。

そして、次の種目「クリーン・アンド・ジャーク」に挑んだ。重量は140kg。これまでの長く、辛い練習を思い起こし、満身の力をこめてバーベルを頭上に。見事成功。堂々の3位。夢にまで見た念願の表彰台へ立った。

国定家は、代々所属教会への心寄せを始めとし、何事に対しても不足を言わない実直な信仰一家。「一生懸命頑張って練習した。もうちょっとでバーベルが上がる。しかし最後のもうひといきの力が出ない——。その時、神様が少し手を添えて下さったんだろう」と今大会を振り返る。

そして「これまで何回かクラブを辞めようと思った事もあるが、苦しくても練習すれば必ず成果が数字で出てくる。合宿などで他府県の人たちとも友達になり、ライバルが出来てまた頑張ろうという気になる」と重量挙げの魅力を話す。

国定君の試技を見て、4ヶ所の大学から入学の要請があった。意中の学校は決めている。

「高校と大学とではレベルも練習内容も全く違う。高校はクラブ全員が協力しあい、皆で強くなるとういうのに対し、大学は一人の世界だ。自分に合ったメニューを基本に行い強い者だけが残っていく厳しい所」と未知のクラブの不安を感じながらも「目指すのは大学チャンピオン。表彰台の一番高い所に立つこと」と力強く夢を語った。

国定君は今年8月、国民体育大会岡山県予選の「クリーン・アンド・ジャーク」種目で150kgを上げ、県高校新記録を樹立した。

(記事提供 新山邑分・三島衛氏)

120周年記念祭駐車場について



- ◆駐車場には限りがあります。乗り合わせてお越し下さい。
- ◆係員の指示に従って、同乗者を乗降場で降ろし、誘導される場所に駐車して下さい。
- ◆臨時駐車場(恵風荘)へ駐車した車は、アトラクション終了後大教会への進入はできません。大教会から臨時駐車場までの送迎バスをご利用下さい。
- ◆大教会及び臨時駐車場出口の退場は、必ず左折して下さい。
(右折禁止)
- ◆前日宿泊者・係員の方は、以下の時間内に臨時駐車場へ車を移動して下さい。
 - ・29日：正午～午後3時30分
 - ・30日：午前6時30分～午前8時
- ◆大教会構内及び裏出口周辺道路では、15km/h以下徐行でお願いいたします。

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「月日にわにんけんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから」と紋型ないところより道具を引き寄せ 守護を教え この世と人間をお創造下さったばかりでなく 約束の年限の到来と共に教祖を月日のやしろとお定めになり これの世界救けの道をおつけ下さいました 以来各々のいんねんをお見定めになり次々とこの道にお引き寄せ下さり 国内は元より海外にもお道が広がっております事は誠に有難い極みでございます 私共はお引き寄せ下さいました親心の程に感謝の念を抱きつつ 朝夕にお礼申し上げますと共に 世界救けの用木との自覚のもと 日々届かぬながらも精一杯につとめとさづけを通してたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にもこの月二十六日は 親直々にこの世の表にお現れになり世界救けに踏み出された尊い日柄でございますのでおぢばでは秋の大祭が執り行われますが 当教会に於きましても理のお許しを戴いて今日の吉日 只今からおつとめ奉仕人一同心も晴れやかに 一手一つに揃えて明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて秋の大祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 思召に添い切る心を更に強める状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又本日は世話人島村廣義先生にお越し頂いております 後程時句に当たってのおぢばの思いをお聞かせ頂き 今後のたすけ一条の御用の指針とさせて頂く所存でございます 更には又 来月三十日の創立百二十周年記念祭に向けての成人の歩みも残すところ一ト月余りとなってまいりました 悔いの残らないよう力の限りにつとめ切らせて頂く所存でございます 加えて年頭の心定めも記念祭までの完遂目指して 何でもどうでもの心で勤めさせて頂く覚悟でございます

何卒親神様には 旬々にお聞かせ頂く親の声を頼りに御恩報じ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜り 世界一列救けたいとの親心に一人でも多くの人が気付き共にたすけ一条に邁進する人が弥増してお望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

|| 教会指令 ||

◎任命願

福 廣 分教会

*前任 佐々木 滋郎

*新任 宮本 正子



宮本正子氏

福 輝 分教会

*前任 宮崎 可夫

*新任 田中 亜輝



田中亜輝氏

香地華 分教会

*前任 渡邊 勇喜

*新任 武内 清和

◎任命・移転・改称・恒例祭日変更願

高丸 分教会

*前任 松岡 陸代

*新任 谷本 里喜男



武内清和氏



谷本里喜男氏

*移転元

広島県福山市駅家町坊

寺四五五一

*移転先

大阪府八尾市沼一一

二

*旧名称・系統位置

高屋・芦品・芦辺

*新名称・系統位置

高屋・高丸

*春秋大祭・月次祭

◎教人資格講習会(中期)受講者

立教174年11月10日終講

吸江 西村 理人

9日↓6日

☆鎮座祭 立教174年11月5日

☆奉告祭 立教174年11月6日

以上四件 立教174年10月26日承認

◎秋季大祭詰所受入ひのきしん

自 立教174年10月25日

至 立教174年10月27日

東ブロック

笠岡 中村 裕美

西ブロック

神驛 渡邊 泰子

福山ブロック

福節 藤井 治喜

高屋ブロック

稲倉 藤井 宏一

島根ブロック

多古浦 余村 元

上府ブロック

甲井 山田 信子

有志

島根 面谷 美恵子

福	福	福	福
原	原	原	原
徳	徳	徳	徳
美	美	美	美
江	江	江	江
瑞	瑞	瑞	瑞
雲	雲	雲	雲
山	山	山	山
田	田	田	田
敏	敏	敏	敏
教	教	教	教



※お詫びと訂正

本年10月21日発行の『かさおか 第50巻第10号』16ページ「大教会 便り」の「本部食堂ひのきしん」の記事中、お名前に誤字がありましたので、「折田英昭」を「織田英昭」に訂正します。

読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。



笠岡大教会創立百二十周年記念祭を迎えるに当たり、今それらの立

場で準備は着々と進められています。そうした中で意見の違いや視点の置き所によって不足を生じる事も少なからずある様に思います。笠岡に繋がる一人ひとりの思いの結果が喜びのその日となる為にもしっかりと話し合い、心の通じ合いを持って事に当たらなければと思うこの頃です。私は会長になって五年。その頃の日記を引っ張り出し読み返すと、「相手の事が嫌だと思ふ所は自分の直すべき所を相手が見せてくれているのだから感謝しよう。そして、素直に直せる様、日常生活の中から自分の都合勝手に自分を擁護する様な考えを押さえて相手の立場を尊重し行動する中で人間を大きく丸くしてくれるだろう。自分一人のちっぽけな学習、経験だけで物事を判断する事なく素直に大勢の人の意見に耳を傾けて徐々に心の視野を広げてゆこう。」と書いてありました。この大きな旬が自分にとっての大切な旬である為にも成って来る事にバランス良く対応できる様つとめたいと思います。(む)